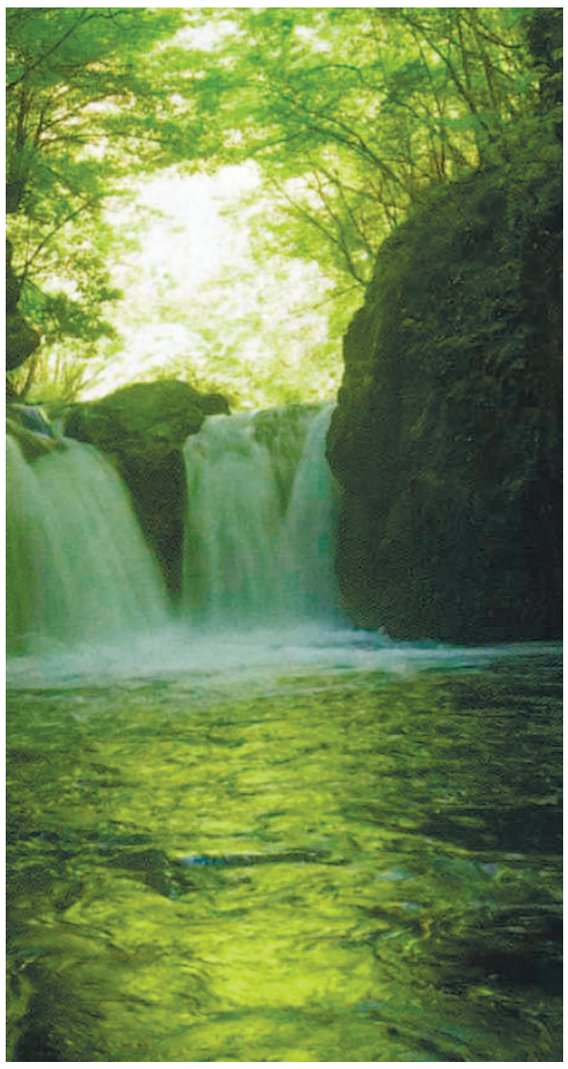
下呂温泉DMOがスタート

～下呂温泉DMO事業・広域観光ルート・新観光施設～

特別インタビュー


小坂の滝

エコツーリズムを軸にE—DMO推進
映画〝君の名は。〟で飛騨市観光協会と連携

滝　康洋氏
(一社)下呂温泉観光協会長

2011年から観光マーケティングを実践し、観光客と宿泊客がアップしている下呂温泉（岐阜県下呂市）。今年度は国が薦める日本版DMO候補法人に登録。滝康洋・下呂温泉観光協会長に今年度の状況とDMOの事業の進捗状況を聞いた。

――今年度の宿泊客の状況は

滝　8月末まで全体で5・5%増。国内が5%増で、インバウンド10・2%増。国内は、上期の首都圏からの単独貸切バス支援事業が上手くいった。9月は台風と大雨の影響を懸念している。今年は、ふると旅行券が無いことがマイナス要因。秋の行楽シーズンの観光客減少を警戒している。また、熊本地震の影響もなく、九州からの観光客も増加している。

昨年度は、宿泊客数が104万人で100万人を回復した。今年の目標は108万人。今のまま順調に推移すれば、109万人まで見込める。

さらに今年度途中で水明館が客室18室、小川屋は20室の増室があり、現状の定員稼働率であれば全体で110万人以上見込めるようになった。

客室の単価も維持している。全国的には国内観光客は減少。インバウンドもクルーズ客の増加が顕著で宿泊客が伸びているという印象は薄いと聞いている。下呂でも国内客がインバウンドをカバーしている印象だ。

国内の個人客は、受け入れ態勢が充実してきたと考えている。JR利用、マイカー利用も良い。東京からの宿泊客が約5千人回復したのが大きい。春先からの首都圏からの単独貸切バス助成事業が効いたカタチだ。

地元の岐阜県は去年が県外に旅行に行ったように感じていたのが、今年は県内で旅行している。

東海地区では、静岡への第二東名開通対策もうまくいった。静岡からの観光客が増加した。下呂では、ひとつのテーマに絞る誘客施策は危険と感じるので、全般的に幅広く展開することが大きい。今のところ国内客が中心。

――インバウンドは

滝　中国、韓国は前年並み。香港、台湾、マレーシアがけん引した。団体も個人も伸びている。今年度からインバウンドと国内の交通手段別のデータ分析を始めた。これで団体と個人の動きが見える。

香港からの観光客のレンタカー利用者が増えている。同じ右ハンドルが運転しやすいようだ。

――今後の見通しは

滝　円高、株安を警戒している。株で儲けた人の旅行が減るというのは観光消費額を下げてしまう。円高で海外旅行も復活している。地方によっては宿泊料金が安値志向に動いているとも聞いているので地域間競争の激化を懸念している。

――日本版DMO（Destination Management／Marketing Organization）の候補法人への登録については

滝　2011年からマーケティングに取り組んできたが、いよいよ国がDMOに舵を切ったので、すぐに登録を決めた。観光先進国にはDMOがある。

DMCはDestination Management Company）の設立も検討に値するが、DMCを設立してもDMOとして各種の事業を最適な事業者を選択することが重要だ。それがDMOの重要な要素。自前のDMCを作って優先的に事業を与えると事業の質や自律性が失われる。ただし、DMOのためにDMCが得た利益はDMOに寄付させることで、DMOの自主財源が確保できる。エコツーリズムに関しては、NPOのように非営利の団体を採用するという手もある。持続可能な観光戦略、持続可能なDMO経営が必要だ。

――注目を集める大型トピックスである新観光施設の進行状況は

滝　阿多野湯けむり広場（下呂館跡地）の有効活用は、情報発信拠点、中央公園、中食の販売拠点の各機能を持つ（仮称）「下呂　癒しの交流広場」ということで進んでいる。下呂温泉観光協会から下呂市に提言を行った。滝多賀男・下呂温泉旅館協同組合理事長からは、シンボルとして噴水の設置や花壇の拡充の案が出ている。白鷺橋は欧風のデザインを取り入れているので、優れたアイデアで私も賛成だ。

運営については、期間限定で開催している、下呂温泉湯けむり横丁にぎわいバザールのアンケートも参考になるだろう。下呂カツなどが人気となっており、下呂を冠した新しい食べ歩きメニューが販売されるだろう。まず、この観光施設を成功させ、次のステップとして下呂のシンボルとなる新温泉施設の開発に進めていきたい。

――下呂温泉の地域連携は

滝　旧来の下呂にとってのゴールデンルートとして、41号線沿い。行政の活性化組織もあり、民間での連携の話も進んでいる。

犬山市の犬山城と博物館明治村、リトルワールドといった下呂温泉と相互補完できる観光地。こういったルートはインバウンド客に人気の他、2018年に明治150年でも再注目されるだろう。

新しい地域連携では、飛騨市との連携。飛騨市では、大ヒットしているアニメ映画「君の名は。」のいわゆる聖地巡礼ツアーと呼ばれるアニメの舞台を巡る観光客が急増している。「君の名は。」では、東海道新幹線を使い名古屋で特急ワイドビューひだに乗り換え、飛騨古川に向かうシーンが描かれている。

飛騨市の古川は、2002年のNHK朝の連続テレビ小説「さくら」の舞台として一大ブームが起きたところ。当時と同じで下呂温泉に泊まって、飛騨古川に向かう観光客が増加している。

公開から大ヒットまで時間が短いこともあり、下呂温泉でも「君の名は。」聖地巡礼のモデルコースや「君の名は。」の聖地の情報発信を旅行会社などに情報提供をはじめたところ。飛騨市観光協会とも民間レベルで連携が進んでいる。飛騨市観光協会の蒲敦子会長は、「『君の名は。』の聖地飛騨古川の魅力を下呂温泉への誘客に活用してもらい、大きなマーケットである下呂温泉の宿泊客が飛騨市へ訪れてもらえるようになることを大いに期待している」と連携に前向きだ。下呂温泉との連携はウインウインの関係。旅行商品としては、「君の名は。」だけでなく、中高年には懐かしい朝ドラ「さくら」のゆかりの地として、紹介することで満足してもらえるコースになる。

連携を確認する滝会長と蒲敦子飛騨市観光協会長
（「君の名は。」聖地の飛騨市図書館）

DMOの事業で配信が始まったアプリ

――DMOの成功のポイントは

滝　客観的なデータに基づく現状把握だ。ニーズが分からないと何もできない。様々な客層を調査して、誘客を行う。スピーディーでありながら、スモールスタートで徐々に数を増やしていけばよいと考えている。下呂温泉観光協会が単独で地域型DMOを選んだのは、マーケティングとマネジメントができるのは、下呂市内で、もっといえば核となる下呂温泉街。欲張って下呂市以外の他地域と一緒に地域連携や県をまたぐ広域連携のマーケティングやマネジメントを下呂温泉観光協会単独ではやるべきでない。

県内連携は県内の他の市町村と情報交換や連携の可能性を確認後に県の事業で、同様に中部地域内の連携は、中部運輸局に提案して、事業化するほうがうまくいく。地域主体、地域主導がDMO成功のもうひとつのポイントだろう。

――下呂温泉DMOの特徴は

滝　下呂温泉DMOの特徴はエコツーリズムを柱のひとつにしたこと。DMOの理念である観光振興や地域振興に環境保全をプラスするとエコツーリズムになる。これをE—DMOと呼んでいる。ツアー実施は一年半後を予定としている。エコツーリズム事業は国内のエコツーリズム研究の第一人者である真板昭夫教授（北海道大学観光学高等研究センター特任教授、日本エコツーリズム協会理事）にお願いしている。下呂温泉では、30年前から温泉資源の保護のために温泉の集中管理を行っている。温泉のムダ遣い、乱開発を防いできた。環境面では、温泉排水も下水処理したものを排出していること。エコツーリズムの理念と共通している。

エコツアーとして、下呂市内の既存の旅行商品化されている観光資源の小坂の滝をはじめ、新たなエコツアーポイントとして、白草山、御嶽山の旧登山道がある。真板教授の話では、エコツーリズム推進法では、市町村が作成した地域ごとの全体構想が主務大臣の認定を受ければ、地域のエコツーリズム実現のための支援を受けられる。観光商品としてネックとなりやすい2次交通では、旅客自動車輸送業の許可を要せず、駅からエコツーリズムのポイントまでの送迎ができるようになる。エコツーリズムの実現化と継続化を同時に進めていきたい。

――DMOの課題は

滝　DMOの補助金が将来的に無くなる可能性を考えて、自立できる基盤を整備しておかないといけないこと。自分たちの事業を進めながら、国内外のDMOの成功事例を情報収集して、研究することが必要だ。

事業受託や収益事業についても検討してきたい。

――下呂温泉の地域連携は

滝　旧来の下呂にとってのゴールデンルートとして、41号線沿い。行政の活性化組織もあり、民間での連携の話も進んでいる。

犬山市の犬山城と博物館明治村、リトルワールドといった下呂温泉と相互補完できる観光地。こういったルートはインバウンド客に人気の他、2018年に明治150年でも再注目されるだろう。

新しい地域連携では、飛騨市との連携。飛騨市では、大ヒットしているアニメ映画「君の名は。」のいわゆる聖地巡礼ツアーと呼ばれるアニメの舞台を巡る観光客が急増している。「君の名は。」では、東海道新幹線を使い名古屋で特急ワイドビューひだに乗り換え、飛騨古川に向かうシーンが描かれている。

飛騨市の古川は、2002年のNHK朝の連続テレビ小説「さくら」の舞台として一大ブームが起きたところ。当時と同じで下呂温泉に泊まって、飛騨古川に向かう観光客が増加している。

公開から大ヒットまで時間が短いこともあり、下呂温泉でも「君の名は。」聖地巡礼のモデルコースや「君の名は。」の聖地の情報発信を旅行会社などに情報提供をはじめたところ。飛騨市観光協会とも民間レベルで連携が進んでいる。飛騨市観光協会の蒲敦子会長は、「『君の名は。』の聖地飛騨古川の魅力を下呂温泉への誘客に活用してもらい、大きなマーケットである下呂温泉の宿泊客が飛騨市へ訪れてもらえるようになることを大いに期待している」と連携に前向きだ。下呂温泉との連携はウインウインの関係。旅行商品としては、「君の名は。」だけでなく、中高年には懐かしい朝ドラ「さくら」のゆかりの地として、紹介することで満足してもらえるコースになる。

世界一の花火師による下呂温泉の花火

一昨年7月にハウステンボスで開催された第6回世界花火師競技会で、下呂温泉の花火イベントを担当する会社が世界一になった。下呂温泉では、夏の下呂温泉まつりをはじめ、クリスマスのある12月、冬季に花火イベント、春にはクラブツーリズムと共催の夜桜花火が開催される。とくに下呂温泉花火ミュージカルは、コンピュータを駆使した特殊演出花火。最新のヒット曲や往年の名曲など、さまざまな音楽に合わせて華麗に打ちあがる音楽と光のライブショーとなっている。

★下呂温泉花火ミュージカル冬公演
12月の各土曜日（24日はクリスマス特別公演）。※31日は除く。
冬の澄み切った夜空に、音楽に併せて華麗に花火が舞い踊る。
20時～　約15分間。クリスマス特別公演は約30分間。

★冬の下呂温泉花火物語
2017年1月7日～3月の毎土曜日。新春、節分、バレンタイン、合格祈願など、毎週テーマに併せた演出あり（音楽なし）。
※予告なく変更中止となる場合がある。

（問）（一社）下呂温泉観光協会　TEL：0576-24-1000

貸切バス助成事業

下呂温泉観光協会では、10月31日まで秋の貸切バス助成事業を実施している。対象は10月31日までに平日の下呂温泉宿泊を伴うツアーを実施する団体または旅行業者。関東発のツアーであることなど。補助金額は1台に付き5万円。詳細は下呂温泉観光協会へ。冬季にも貸切バス助成事業は実施する予定となっている。

下呂交流会館アクティブ

温泉でコンベンション

下呂温泉を中心とする下呂市内には、全体で約1万人の収容能力を持つ宿泊施設を有し、本格的なMICE（ミーティング・インセンティブ・コンベンション・イベント）の受け入れを行っている。メイン施設である「下呂交流会館」は、本格的なアリーナ（体育館）とコンサートホールが併設する複合施設。オープン以来さまざまなコンサートやスポーツ大会・トークショー・寄席などが開催されており、最大で3千人規模のコンベンションが可能。本施設の利用で助成金制度を申請する団体が増えている。

※コンベンション　…　大会・会議・学会・研究会・研修・合宿など。但し営利目的のコンベンション、政治団体・宗教団体またはそれに類する団体に関係しないもの。

対象となる条件
①主たる会場が下呂市内の会議施設等であり、2時間以上のコンベンションが開催される事。
②下呂市内での宿泊を伴う事。（コンベンション参加による宿泊であり宿泊施設を利用する事）
③コンベンション開催前に助成金支給の申請（別紙様式）がなされる事。
※コンベンション参加者宿泊人数は、コンベンション一開催期間の単日ごとの宿泊について区分する。なお、連泊を伴うコンベンションで、単日ごとの宿泊人数が表中のコンベンション参加者宿泊人数に達しない場合は、開催コンベンション期間の総宿泊人数（延べ宿泊人数）によって区分する。
※平成28年度の助成金申請の締切は、平成28年12月末まで。
その他、詳細については同ビューローに要問い合わせ。

■問い合わせ先　下呂市コンベンションビューロー事務局　TEL：0576-23-0070

コンベンション参加者宿泊数（単日あたり）	助成金額
15人～29人	15,000円
30人～49人	30,000円
50人～99人	50,000円
100人～199人	100,000円
200人～299人	140,000円～209,300円
300人～399人	210,000円～279,300円
400人～	280,000円